

FUTURE
UKUSHIMA





福島に 来て見て感じる スタディツアー

【Aコース】
いわき相双北エリア



発表者

1

中央大学
3年
真田晃暢

2

大正大学
2年
石橋郁乃

3

東日本国際大学
3年
朴相俊
出身国：韓国

4

東日本国際大学
3年
アイリス
(アイリンラダー
チンナラットウォラ
チョテ)
出身国：タイ

5

東日本国際大学
1年
鈴木聖弥



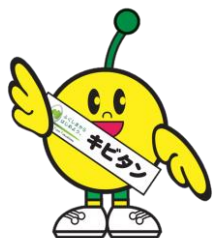
はじめに

私達A班は、首都圏学生10人、東日本国際大学15人で構成されています。

特徴として、外国人学生が含まれているため、より広い視野から福島を見ることができたことが挙げられます。

私達は、東日本大震災で特に被害が大きかった浜通り(いわき、相双)を訪れ、多くのことを学びました。

目次



- 1 ツアーの内容と各訪問先の説明
- 2 ツアー中の活動内容
- 3 県外、県内、外国人から見た福島
- 4 伝えたいこと
- 5 ツアー後の活動内容
- 6 最後に





ツアーの内容



- 1日目
コミュニティ福島、いわきワンダーファーム
いわきワイナリー、いわき石炭化石館ほるる
- 2日目
小高ワーカーズベース、菊池製作所、たこ八
(昼食) 新地町役場 (震災語り部の体験講和)
相馬原釜地方卸売市場
- 3日目
福島ロボットテストフィールド
南相馬市合同庁舎 (報告会)



コミュニティ福島

福島県環境創造センター 交流棟



わたしたちとつながっている
ふくしまの自然環境

Natural Environment of Fukushima and Us

循環型社会に向けて
わたしたちができること

What We Can Do for a Circular Economy



風評被害(お米の全量全袋検査)



放射能の知識の再認識、誤解



環境創造シアターは360度の迫力！

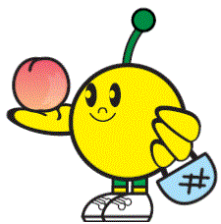


マイナスイメージから未来へ

A survey conducted shortly after the accident revealed contamination by radioactive substance

9種類のトマトの収穫体験、本格的なバーベキューを手軽に楽しむことができる他に、スイーツフェアなど様々なイベントも行われている





地域への コミュニティ レストラン



トマトの
おいしさ



いわきワイナリー



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

- ハンディキャップを
背負った方の支援
- ワインの試飲や栽培
体験、セラー見学





ふくしまから
はじめよう。

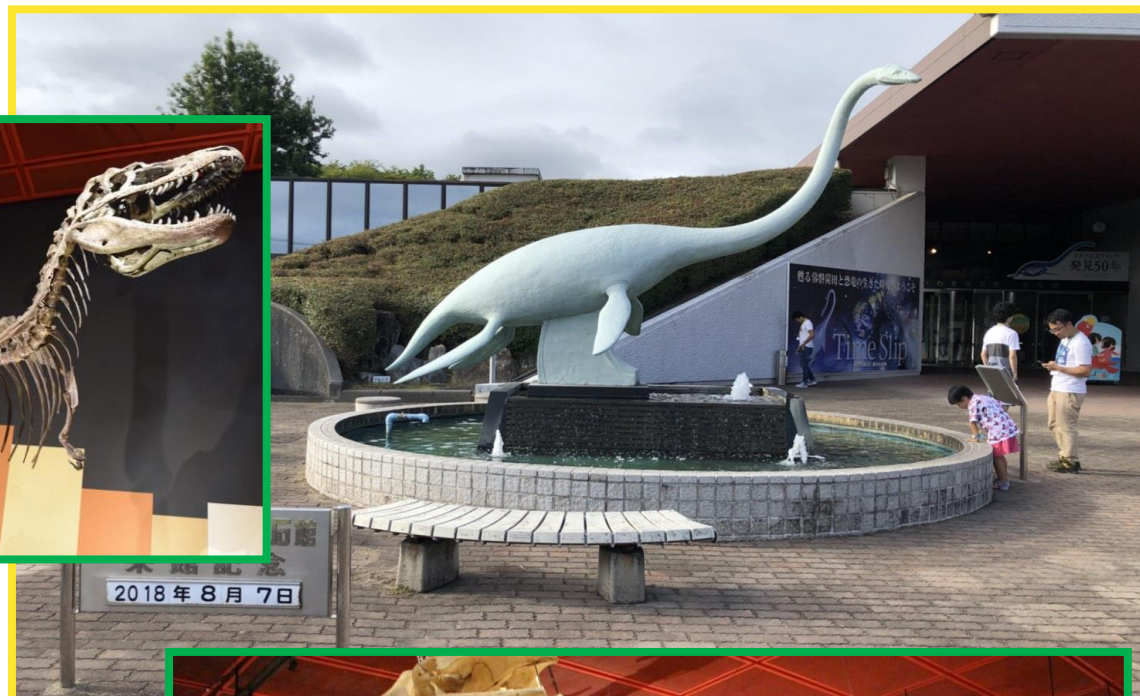
Future From Fukushima.

石炭・化石館ほる る

施設の説明

いわき市が産炭地として
繁栄した当時の資料と、
市内で発掘された動植物
化石と世界の貴重な化石
資料を併せて展示してい
る施設

地域経済の復興と、いわ
き湯本温泉郷の活性化を
図る目的で設立

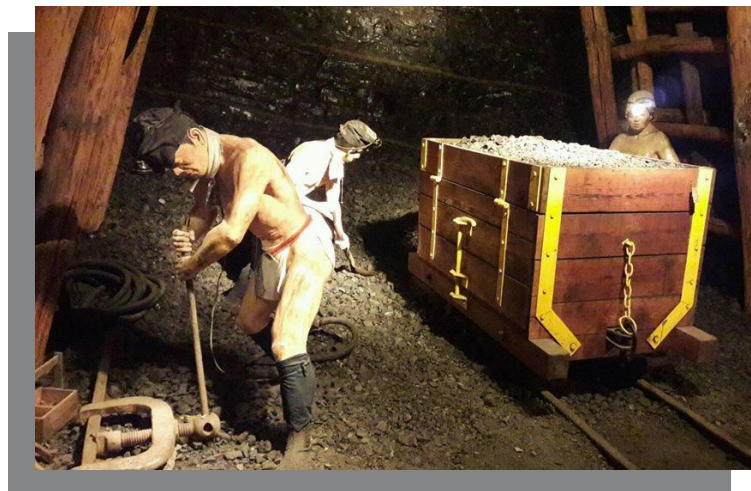




「化石展示」

- ▶ いわき市で発見された日本を代表とする化石、フタバサウルス・スズキイの展示
- ▶ 音と光の演出でダイナミックに展示された貴重な化石

施設の見所



「模擬坑道」

- ▶ 地下600mに降りる雰囲気味わえる
- ▶ 実際の坑道での作業方法などを再現した模擬坑道



小高ワーカーズベース



Odaka Worker's Base

- ① 行政、大企業だけでなく、個人、住民による復興活動
- ② チャレンジ精神 0から100を作る
- ③ 高齢者と若者の復興への意識の差がある



新地町
村上美保子さん
の語り部



広島を活動の拠点に、被災地の物語を紙芝居にする「東北まち物語紙芝居化100本プロジェクト」に参加。津波の教訓を子どもたちに伝承していくために紙芝居を上演

- ▶ 体験談（避難所生活、津波）
- ▶ 震災意識を高める





原発被害から、子どもの未来を守るため、2015年に創設。
紙面で職人の特集を組んだり
現地で採れた食材や、相馬に
来て使える特典をつけて、販
売を行っている。

- 利益よりも地域貢献
- 相馬を好きになってもらいたい

せこよりも
「そうま」がやるべきじゃないか。



相馬原釜地方卸売市場 相馬双葉地区で開業し今年で7年 目を迎える、試験操業の拠点

- 漁師の後継者問題
- 風評被害
→ 水産物の安全性

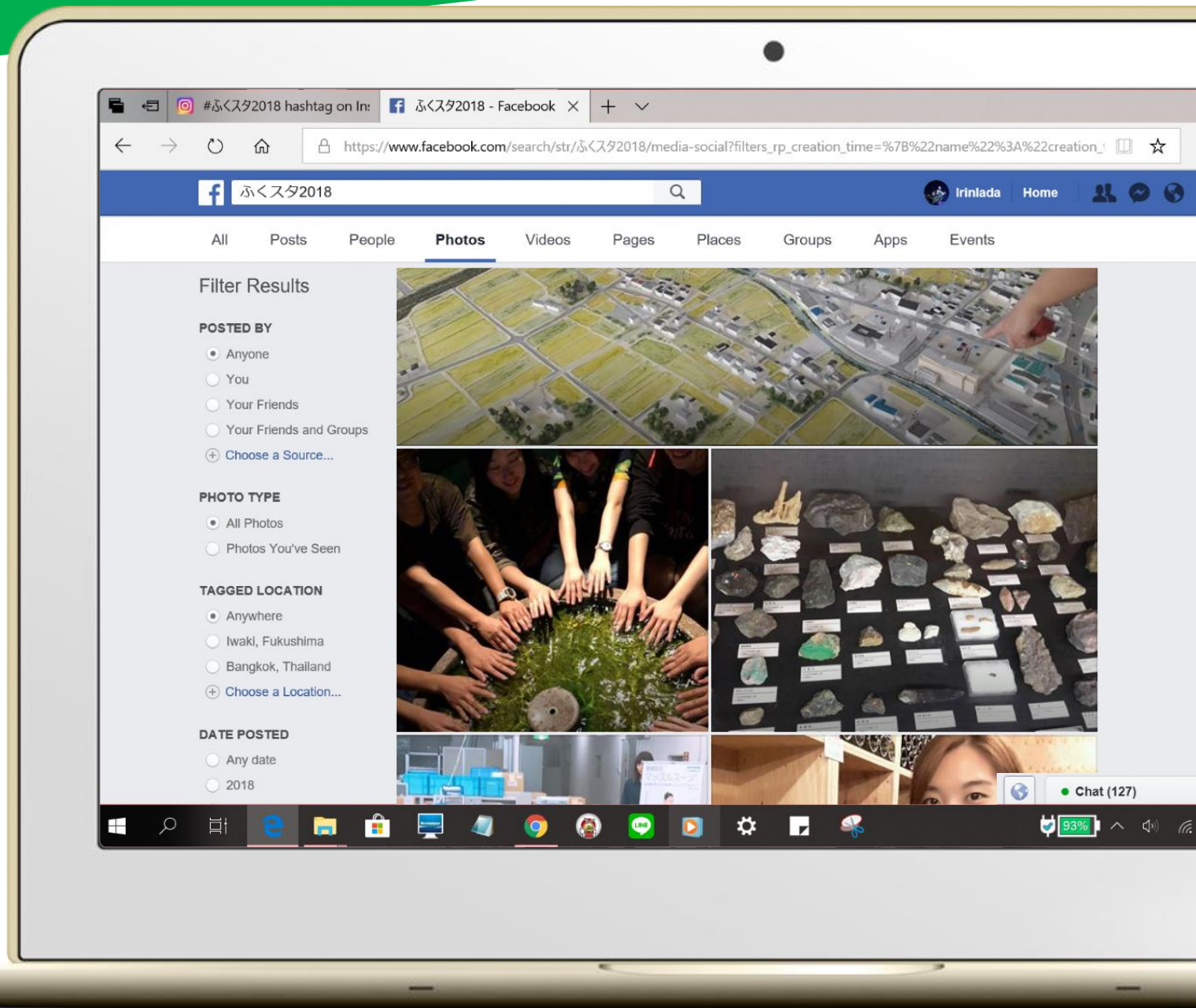
ツアー中の活動

いわきの観光や食の魅力、震災時の話などを聞き、その魅力や感じたことなどをSNSなどを使い

#ふくスタ2018と打ち込み発信

いわきの学生が観光地の案内や紹介

スタディツアーの内容を、PowerPointにて資料を作成し最終日に班ごとに分かれて発表



県外学生から見た福島



「福島は住民の方々の生命力が強かった」
「福島は原発のインシデントが強かった」
「震災当時の福島は被災状況や被災者の思い
復興と差をはかるといふこととが現地にきて有意義だった」

県内学生から見た福島



“東日本大震災の時は中学生の頃で、実際福島に住んでいた学生が多かった。

“今回ツアーを通して、地元をもっと愛するきっかけになった。





“ 実際福島に住んでいても知らない知識がたくさんあり福島県が行っている情報発信など、初めて知ることがあった。

留学生から見た福島



「福島を英語で検索するとまだ、震災の原発の写真ばかりで真っ黒なイメージが強い。」

「実際福島で留学しながら、福島の綺麗さに驚いた。」



「震災当時は日本に
いなかったが、今回
のツアーで福島の新
しい魅力を学べたの
で、自分なりに世界
に発信していきたい
と思った。」

IWA

AKI
Wild Cam
W(≧▽≦)o

GLOBAL NETWORK+

東日本国際大学 留学生いわき情報発信チーム

留学生別科長
矢吹先生



張祐綱
リーダー
台湾
経済3年生



ミミ
サブリーダー
タイ
経済2年生



アウンチーサン
サブリーダー
ミャンマー
経済1年生



教授・副学長
福迫先生



GLOBAL NETWORK⁺ メンバー 2018

ダビット
ペルー
別科



ミンサンラインウー
ミャンマー
経済 2年生



アイリス
タイ
経済 3年生



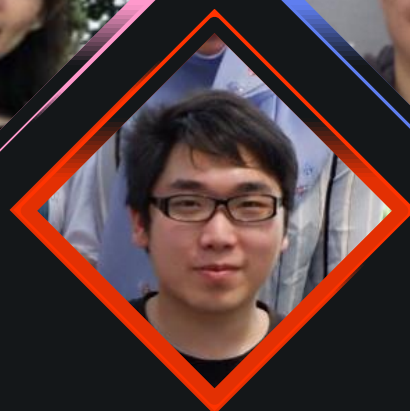
朴 相俊
(パク サンジュン)
韓国
経済 3年生



パラビン
ネパール
経済 1年生



ニユン
ベトナム
経済 1年生



朱 哲毅
(シュ テツキ)
中国
福祉 1年生

エーエーティン
ケツヌウェスー
ティンスエリン
テッテッ
ワイン オン チッ
ドウガナ サンディップ
シェルチャン パラビン
シュレスタ スザル
ネパール プラビナ
ルックワ
王一凡 (オウ イチハン)
金智願 (キム ジウオン)
金在亨 (キム ジェヒョン)
ド ティ テウエ
グエン ティエン ズン
グエン ダイ ギャ
ホアン タン ビン

● 伝えたいこと ●



“ ”

福島産のものを
買ってほしい

“ ”

震災を風化させない
(津波、原発の被害の
大きさを伝承してい
く)

“ ”

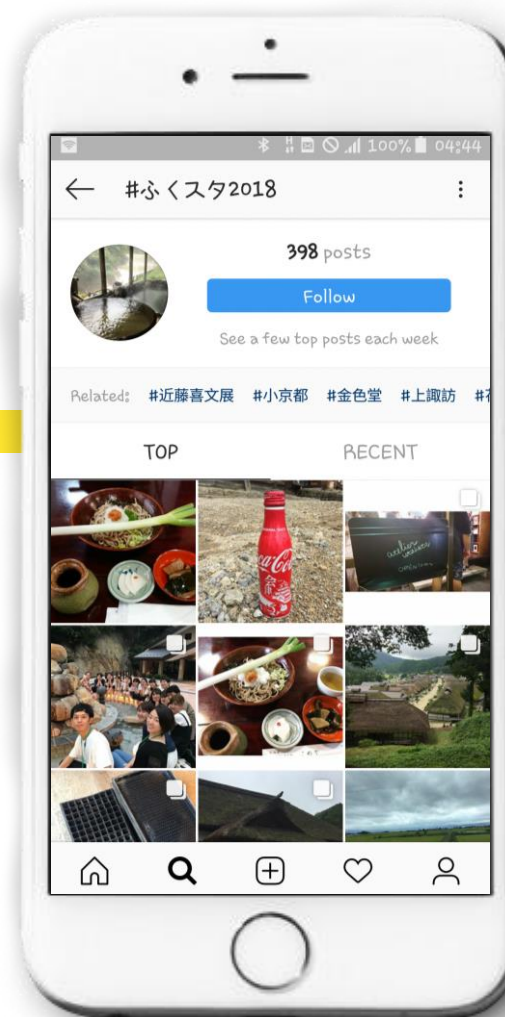
観光地の魅力



ツアー後の活動

SNS

- ・速報性があるので、更新がしやすく継続もできる
- ・幅広く活用されてるので様々な年代に発信でき





ツアー後の活動

3000人

- ・ 視覚的な情報を若い世代に向けて発信する



ツアー後の活動

(SNSに頼らない方法)

学祭での発表

- ツアーで学んだことを簡潔に模造紙にまとめる
- クイズや質問コーナーを設ける
- 友人や家族がまた別の人に話すことで伝わる

イベント等で情報発信する

- 福島産の食材を使用した出店
- アンテナショップで学生が福島県のPRコーナーを作る
- 年齢層関係なく情報発信できる

ポスター作成

- 駅や市区町村の掲示板に貼ってもらう
- 福島県の行事や特産物がメインのポスターを学生が作成
- 私たちより年は上の、幅広い人に発信することで風評被害等の改善につながる

最後に

- 》 今回のツアーで県内勢も県外勢も改めて福島を知ることができた
- 》 震災の時の状況や復興に歩みなどを学ぶことができた
- 》 地元の手も必要だが他県からの力も欠かせないと感じた
- 》 福島県民は何度でも立ち上がる



Let's チャレンジ!
ふくしま

THANK

YOU